

陸前高田市議会会派

# 新星会

発行  
陸前高田市議会会派  
「新星会」  
発行日  
平成18年4月20日  
第3号  
発行責任者  
松野榮雄



「自治体はみずからリストラ出来るか」との問いに、どんな答えを用意できるのだろうか：東京市政調査会公開講座

## 三月定例会を終えて

新星会会長 松野榮雄

新年度予算等を審議する三月定例会も終わりました。一般会計予算総額百〇六億四千四百万円と、前年度比マイナス1.3%とほぼ同額の予算規模を確保することが出来ました。

財源不足を補うため様々な努力工夫もされましたが、財源確保が難しく、昨年からの引き続きの第一中学校改築工事や川の駅新築工事が主なものと成っています。

我々新星会では、議会での質疑をとおして、縮小・削減だけでは市民の気持までしぼんでしまうのではないかと危惧し、メリハリのついた施策の執行を求めてきました。確かに、いま今の生活も大変であることは認識しています。だからこそ、明日につながる施策にも投資をすべきではないかと考えています。

新年度からは、指定管理者制度が導入される施設があります。中でも、キャピタルホテルと黒崎仙峡温泉には期待したいと思えます。

# 確保と 地場産業の振興を



**松野** 三月議会ご苦労様でした。新年度予算をはじめ、多くの議案があり、特に特別職の報酬についてなど二件については修正案の提案など本当にお疲れ様でした。新星会からは福田議員、西條議員、佐藤信一議員が一般質問に立ち中里市長と議論を交わしたわけですが、特に佐藤議員は農業振興の面から営農指導センターのあり方などについて提案をされていきました。市内経済になかなか元気を取り戻せない現在において、基幹産業のひとつである農業の元気を取り戻すことも大切ではとおっしゃっていました。詳しく話していただけますでしょうか。

**佐藤** 自分が農業を行っているからだけではなく、農業士として市内ばかりでなく、県内様々な地区の農業を営む仲間と意見交換をしていくうちに、当市には農業を産業として発展させえる社会基盤の整備がなされていることを感じたわけです。当局では三月議会に「農業振興対策室」を設置する条例を



提案されました。JA陸前高田市農協と農業改良普及センターと一緒にやって農業の振興に取り組むとのこと、大変素晴らしい提案だと思います。市内の農業は、北上川流域地域と違って稲作を中心とした大規模農業には適さないわけですが、気候や風土など他地域に勝るとも劣らない環境があるわけです。この、陸前高田ならではの特色を活かした農業を、生産技術から販売まで一貫した形で展開できるプロジェクトとして今回の「農業振興対策室」を捉えています。販売も各地域の産直をはじめ高田松原物産館にある採れたてランドなど、皆さん一生懸命頑張っており、成果も着実に上げてきているところだと思います。このような流れを加速させるためにも「農業振興対策室」に期待しているところです。ただ、なぜ営農指導センターという立派な施設がありながらこれをフル活用しないのかという点に疑問を持っているところだと思います。新規就農者の育成を中心に据え、農産物の生産実証から加工にいたるまで様々な役割を期待されていたのですが、研修生の確保に苦労されているなど、その運営は当初の目論見から大きく外れてきました。中里市長は、市民農園として農業に興味を持ってもらう



営農指導センターでの農業指導

のもひとつの方法としておりますが、産業振興という本来の形に戻っていたきたいと考えておりました。今回の「対策室」こそ営農指導センターに置き、その力を十二分に発揮して、本市農業を食える産業まで近づける役割を発揮していただきたいと思っております。が、諸事情により横田町のJA農産部内に設置するとされ、戸惑いを覚えています。

**松野** そうですね。米崎町浜田地区は、営農指導センターを中心に、県の南部園芸研究室や農業生産法人アグリランド高田などが張り付き、本市農業のモデル的な地域であり、実証圃場も確保できるなど施設設備などとあわせ最高の立地条件だと私も感じます。さて、西條議員は市長の政治姿勢につ





# 雇用の

いて度々取り上げてこられましたね。

**西條** 三月定例会では、市長の政治姿勢について重点を置いて質問をしました。中里市長は選挙公約に掲げたもののうち、タラソ施設の建設中止、市長報酬の引き下げ、国保税の引き下げと実行した部分も確かにありますが、直面した部分、言い換えれば目に見える部分だけの実行にとどまっているのではないかと疑問に思っていたからです。市長として陸前高田市のまちづくりの方向性を示すとか、長期にわたって地道に努力しなければならぬ課題については方向性を示さない、場当たり的な市政運営を行っているのではないかと感じています。具体的な例として、今後五年間の施政執行の機軸とも言う



たくさんの市民で盛り上がった産業祭り



います。財政が厳しいから縮小・削減との考えだけではなく、まちの活性化には、将来に対する投資という考え方も必要ではないかと考えています。中里市長には、リーダーとしての姿勢を示し正面から議論してもらいたいと思います。

**松野** 福田議員も市が行うべき大きな仕事として働く場の確保を提言されましたね。

べき、市総合計画後期計画がまだ出来ていない。本当なら四月一日から執行される十八年度予算は、新しい基本計画に基づいて予算化されたものを執行すべきものですが、計画自体が二月末になってやっと審議会に諮問され、現在に至っても我々議会に対してさえ公表されていないのが現実です。確かに、財政運営の見通しに確固たる物がない現状では厳しいものがあるとは思いますが、市長としてまちづくりの方向性を市民に示すという大きな責務をきちんと果たすべきではないかと考えています。

また、本市だけで即効性のある施策を展開できるかという難しい課題ですが、取り組まなくてはいけない課題として景気浮揚対策があります。これに対して明確な姿勢が見えないのが残念です。同僚の福田議員もよく発言していますが、雇用の場の確保に対して息の長い活動が必要だと私も思っ



**福田** 市の活力はやはり人だと思えますよね。そのためには、ここで暮らせるだけの経済力を手に入れなければならぬのではないかと考えた方が働く場の確保、特に雇用の場の創出には力を入れなければならない課題だと思っています。継続して、雇用の場の確保を言い続けてきましたが、これは私だけではなく市民の多くが望んでいることだと思えます。一般質問でも話しましたが、新成人のアンケートを見ると、毎年ですが「陸前高田が好きだ



から、高田に帰ってきて仕事をした  
い」と答えている新成人がとても多い  
んですよ。望んで、都会へ就職してい  
るのではないのです。市内や周辺に働  
く場があったら、地元で生活したいと  
思っているのが本音ではないでしょう  
か。家族もまたそれを望んでいるので  
はないでしょうか。私は、今までの経  
験から西條さんと同じように働く場の  
確保のために投資が必要だと思ってい  
ます。自動車関連産業が集積しつつあ  
る北上川流域の市町村と比べ企業進出  
の条件がかなり厳しいのが現状です。  
だからこそ、市民の合意を得て、企業  
が立地しやすい条件整備が必要だと考  
えています。働く場ができることによ  
って、商業や農漁業にも様々な経済効  
果が発生すると予測されますので、い  
ま今の生活を守ることに加え、働く場  
の確保に向けた戦略的な考え方も併せ  
持つことが大切だと考えています。

特に、本市は他の沿岸地域と違い有



新成人の多くが残れるような町に

効利用できる土地を多く有しているこ  
とを活用すべきだと考えています。そ  
のためには、点としての陸前高田市で  
はなく他の工業地域と、線として結び  
機能できるような道路や情報インフラ  
の整備について県をはじめ様々な自治  
体と連携した事業を行うことも急務だ  
と考えます。

**松野** そうですね。陸前高田の持つメ  
リットをどのように活用するかという  
ことが大切だと私も感じます。さて、  
小松議長は、今までの議会を振り返っ  
て我々はそのような議員活動がこのま  
ちの発展のために必要だとお考えでし  
ょうか。

**小松** 議長としての立場上なかなか議



論に参加できませんが、今年から市の  
施設に指定管理者制度が導入されまし  
たが、私は産業振興の観点からこの制  
度の運用に期待しております。枠の中  
ですけど、管理者に裁量権が与えられ  
たと言うことは、企画と努力次第では  
大きな地域産業の創出につながるの  
はと感じています。

また、個人的な考え方として聞いて  
いただければと思いますが、三月定例  
会では、当局提出提案に対し議員から  
修正案が提出され、慎重な議論が交わ  
されました。これは、とても良いこ  
だと感じました。それぞれの考え方を  
主張しながら議論を重ねる。当局の考  
え方とは違った見方から、市政に参画  
するものとして責任を持って提案を行  
う。修正案に限らず、議員発議として、  
様々な考え方を提案議論していただく  
ことが、議会の活性化につながるの  
はと感じています。その中で少しだけ  
注文があるのですが、私たちの会派で



指定管理者制度が導入された黒崎仙峡温泉

もなかなか出来かねていますが、市民  
の中に入り、市民の声を聴くこと、例  
えば地域座談会やミニ集会、市政報告  
会などを積極的に行い、議員としての  
活動をもう少し市民から目につくよう  
なことが少し不足しているのではない  
かと感じています。議員個々としては  
様々な活動をされていると思いますが、  
私が申したいのはせっかくなので、会派  
ですので、会派としてなにかされては  
と思っております。

**松野** ご指摘ありがとうございます。ま  
す。地域座談会やミニ市政報告会  
も議論には上るのですが、なかなか  
出来かねていますね。今年は少し具  
体的に検討してみることにはしまし  
ょう。陸前高田市発展のために頑張り  
ましょう。





西條 廣議員

# 議会報告

## 17年9月定例会

### 1 市長の政治市政について

- (1) 今回の総選挙の結果、「三位一体改革」の推進により、地方分権が一層加速すると思われるが、そのことを受けて、当面自立を掲げている市長は、

陸前高田市にどのような影響があると思うか。

- (2) 市長の任期は来年度中であるが、これまでの市長公約の達成度はどうか。また、来年度予算編成の重要ポイントは何か。市長は、残された任期中に新たな政策を打ち出す考えはあるのか。

### 2 高校再編について

- (1) 市では、高田高校の商業科（情報処理科）の課題にどのように対処するつもりか。
- (2) 広田水産高校の入学制に学費の補助を行ってきたが、統合後もこの制度を持続すべきと思うがどうか。
- (3) 広田水産高校の施設の利活用については、今後、県で設置すると思われる整備検討委員会で話し合われると思われるが、市の考え方はどうか。

### 3 陸前高田地域振興株式会社の経営状況について

- (1) 第17期の決算では赤字を計上したが、第18期の赤字削減対策はどうか。また、市長は、第17期の決算を受けて、不退職の決意で経営改善に当たるとしているが、その決意の内容はどうか。
- (2) 地域振興株式会社の筆頭株主として、また、取締役会長としての責任はどうか。
- (3) キャピタルホテルの一部の改修が行われたようだが、どこを、どんな理由で改修したのか。また、今後急がれる改修箇所と規模はどの程度か。

## 18年3月定例会

### 1 市長の政治姿勢について

- (1) 市長は、今任期中にめざした政策・施策を最終年度中に完成できるのか。また、市総合計画後期基本計画の諮問の時期は遅いのではないか。
- (2) 市内経済は大変疲弊している。景気浮揚対策が他力本願では未来の夢や希望は見えてこない。市内各産業の元気をどのように喚起させるのか。
- (3) 特別職職員の報酬を来年度も引き下げる計画のようだが、報酬等審議会ではどのような議論がなされたのか。また、一般職職員給与の引き下げもあるようだが、職員組合との合意により市として得るものは何か。

### 2 新合併構想について

- (1) 岩手県が示した新合併構想での気仙広域圏案をどのように受け止めているのか。
- (2) 近隣市町の首長は色々コメントを出しているが、市長はその意向を把握しているのか。また、その後こちらからコンタクトを取ったことがあるのか。

### 3 防災について

- (1) 本市の「日本海溝・千島海溝周辺型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」に対する対応はどうか。また、地区懇談会における要望を受け、どう対応したのか。
- (2) 木造住宅耐震診断支援事業の計画はどのような内容になっているのか。

前号以降の定例会で行った一般質問をお知らせします。



佐藤信一議員

## 17年9月定例会

### 1 第一次産業の振興について

- (1) 地産地消運動の展開の中で、生産現場や流通組織の立ち上げをどのように指導していくのか。
- (2) 環境に配慮した地域循環システムの構築については、どのような考えで進めていくのか。
- (3) 援農システムと農作業受委託とが連動した支援が必要と思うがどうか。
- (4) 観光と第一次産業との結びつきによる活性化が必要と思うが、どのように進めようとしているのか。

### 2 市政運営について

- (1) 財政運営が厳しい中で、「あれとこれと」と言っているが、何が重要と思っているのか。
- (2) 現在策定中の市総合計画後期基本計画の進捗よく状況はどうか。
- (3) 市長自身、陸前高田市の将来ビジョンをどのように考えているのか。

## 18年3月定例会

### 1 林業の振興について

- (1) このほど創設された森林づくり県民税の導入に伴い、その運用について岩手県では市町村や関係団体等の意見を聞きながら進めていくとの考えを示している。本市ではこれをどのように受け止めているのか。
- (2) 今後の林業振興を図る上で、森林組合等とどのような協議を進めていくのか。
- (3) 山林所有者や生産組合等が将来に向けて少しでも希望が持てる林業経営を行うために、どのような支援と施策が必要と思うか。

### 2 農業振興について

- (1) 国の農業経営基盤強化促進法の一部改正により、市町村においても基本的な構想の見直しが行われているが、今後どのように進めていくのか。
- (2) 担い手不足や農業従事者の高齢化に伴い、岩手県では新規就農相談センター等の主催により「新農業人フェアIN岩手」を開催しているが、その陸前高田版を検討してはどうか。
- (3) 市、農協、普及センターでは共同で農業振興対策室を設置し、地域農業の振興を図るとしているが、市総合計画農指センターの役割との整合性をどのように考えているのか。

### 3 市政運営について

- (1) 基本構想において「健康で文化の薫る海浜・交流都市」をめざす本市にとって、今後のまちづくりをどのように進めるのか。
- (2) 市長の任期は1年を切ったが、これまでの施策をどのように総括しているのか。また、どのような考えをもって今後の市政運営を進めていく考えか。

17年6月議会

1 キャピタルホテルの経営状況について

ホテルの経営状況については、先の議会等で赤字経営状況であるとの17期途中の状況が報告されているが、ほぼ決算が固まった現在における経営状況について

- (1) 今期の決算状況はどうか。
- (2) トップセールス等の経営に携わる方々が率先して、営業行為を行う姿勢が必要との議論がされていたが、営業成績改善のための方策はどのようなものを行っているのか。
- (3) 現在の経営状況等から鑑み、観光交流センターの設置目的を十分果たしていると考えているか。

2 行財政改革プログラムについて

本年度予算から、行財政改革プログラムが実施に移されたがその影響はどうか。

- (1) 歳出の抑制から予算の削減がされ、市民に対し協働との精神の下、様々な協力を求めているが、全てに対しコンセンサスを得ることは難しいと思うが、周知理解を得る

ことが必要と考えるがどのような形で理解を得る努力をしているか。

- (2) 計画を上回る形で始まったプログラムであるが、進捗状況を見ながらプログラムの見直しを行う考えはあるか。
- (3) あわせて、機構改革がされたが課の配置等について市民から見ると利便が向上されたとはいえないと感じているが今後改善する計画はあるのか。また、新たな雇用の場の確保に非常に重要と考える企業誘致や企業支援に係る体制が弱体化した感があるが、どのような方策を考えているのか。



福田利喜議員

3 総合計画の後期計画の策定について

公募委員も参加し、具体的な作成に向かった作業が開始された総合計画の後期計画について、市長は実現可能な計画としたいと表明しているが、実現状況を把握できるような数値目標を計画の中に盛り込む考えはないか。

17年12月議会

1 平成18年度予算編成の方針について

- (1) 平成18年度予算編成に当たって、市政運営の基本は何か。
- (2) 一般財源が3億4千万円強の不足と見通しているが、施策の推進と財源不足をどのように調整していくのか。また、市政運営や施策に対する満足度を向上させなくてはならないと考えるが、どのような形で満足度を図るのか。
- (3) 事務事業評価を基本として予算編成を行うとしているが、行財政改革プログラムとの整合性はどのように図るのか。
- (4) 市政運営の大きな柱として「協働」を掲げているが、どのような形で行政と市民との協働を具現化しようとしているのか。
- (5) 来年度からはじまる陸前高田市総合計画後期計画の具現化予算であると考えているが、予算にはどのようなものを盛り込む予定か。

2 一次産業の振興について

基幹産業として位置づけ、振興策を図るとしている一次産業の振興策を具体的にどのように進めていくのか。

- (1) 外貨を稼ぐ産業として水産業が大きな位置を占めてい

るが、維持発展させるための施策を具体的に行うべきと考えるが、ワカメやカキ、ホタテなどの養殖水産物の水揚げ数量の維持がブランド維持、価格維持につながると考えるが生産量確保を進める施策が必要と考えるがどうか。

- (2) 農産物には、転作奨励作物の大豆や小麦などをはじめ農家の経営安定を図る目的で所得安定化対策的な事業もあるが、漁家経営の安定を図り、継続的な操業が可能になるような施策を図るべきと考えるがどうか。
- (3) あわびやウニの密漁が報道されているが、漁家の収入としても漁協経営の資産としても大きな磯もの資源が、不当な手段であらされている現状から、密漁防止対策に力を注ぐべきと考えるがどうか。
- (4) 集落営農を中心とした農業が進められようとしているが、地域にあった農業の推進を図る必要があると考えるが、産業としての農業と地域環境保全としての農業を組み合わせる形で、陸前高田の農業を考える必要があると思うがどうか。
- (5) 現在、県議会で質疑されている岩手県独自の「森林環境税」についてどのように考えているか。また、実施された場合において市民負担はどれ位になると予測されるか。針葉樹林の間伐を主体に事業が進められる見込みだが、当市にはどの程度の事業量が発生する見込みなのか。

平成18年3月定例会

1 平成18年度予算について

- (1) 予算編成に当たって、本市の課題解決へ向けた優先順位はどう考え予算に反映したのか。市長の考える優先順位と市民が期待する優先順位には隔たりがあると思うがどうか。
- (2) 一次産業の振興を掲げて、政策運営を行っているが、「食える産業、継続可能な産業」とするための施策の推進が必要と考えるがどうか。また、本年度予算にどう盛り込まれているか。
- (3) 予算、職員数をはじめ縮小・削減が続いているが、単に削減との発想だけでなく、本来のリストラクチャリングとの考え方をもち、全体を見直し、「必要と考えるところにはしっかりと対応を、縮小・廃止が可能などところに

は大鉈を」との英断が必要と考えるがどうか。

- (3) 当面の間、自立を選択した当市であるが、自立を継続するための具体的な施策は何か。

2 働く場の確保について

- (1) 新成人のアンケートに多く見られた、「将来は陸前高田市に住み、ここで働きたい。働く場をつくってほしい。」との声に対して、どのように応えようとするのか、その具体的な方策を示すべきではないか。
- (2) 自動車産業関連企業が県内に多く進出すると観測されるとの岩手県の見通しであるが、当市としても、様々な角度から企業立地へ向け検討すべきと考えるがどうか。
- (3) 企業誘致において内陸部と当市では条件的に厳しい面が多いと感じるが、進出する企業に有利と感じられる施策が必要と思うがどうか。

### 3月定例会報告

三月定例会では、市長報酬等の改定について会派内様々議論を行い、当局の提案に対して是非々の立場から修正案を提出しました。結果については、新聞等にて皆さんご存知のことと存じますが、特別職の報酬等と火葬場使用料の改定について修正案が賛成多数で可決されました。

新星会では、市長から提出された議案について、十パーセント報酬額を引き下げるとして「陸前高田市特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正」、教育長の給与を四パーセント削減するとした「陸前高田市教育委員会教育長の給与勤務時間及び勤務条件等に関する条例の一部改正」、及び火葬場使用料を現行から引き上げ、さらに住所用件により差をつけようとする「陸前高田市火葬場に関する条例の一部改正」について修正案を提出しました。

当局案に対して修正案を提出した理由については、確かに財源不足により一般職の職員給与も二年連続して引き下げられるなど、行政全体での経費削減に努めるなどしている中で、首長として自ら範を示すとの思いで提案されたものだと思うが、市長就任時に二割、さらに昨年は五パーセントの削減を行っており、諮問された特別職報酬等審

議会でも答申を一本化できず、五パーセント削減と十パーセント削減の両論併記の答申であったことなどを受け、市長の責務の重さと、公務以外にも様々なチャネルの開拓など個人としても活動が必要なことなど、市長として十二分に活動していただくためには、現行の五パーセント削減での市長報酬の額がふさわしいとの判断からです。一般職の職員の給与を二年連続して削減し、説明責任を果たさないのであると意見もありましたが、職員の引き下げも来年三月までの時限立法であること等から判断したところです。

また、火葬場使用料については、引き上げはやむをえない範囲であるが、住所用件を設定することは市外の特別養護老人ホームへの入居者や単身赴任等でやむを得ず住所を市外に移されている市民に対し不公平を招く恐れがあることから、住所用件の設定についてのみ修正提案を行ったものです。

### 新星会研修

## 自治体はみずからリストラ出来るか

### 東京市政調査会公開講座に参加

十七年度の会派研究事業の一環として公開講座へ参加してきました。一月二十八日に東京日比谷の日本プレスセンターを会場に、財団法人東京市政調査会が「自治体はみずからリストラできるか」と題する公開講座で、土曜日のお昼からとの時間帯にもかかわらず、様々な方が参加しておりました。

草野忠義前連合事務局長の基調講演から始まり、新藤千葉大教授をコーディネーターとして、関大阪市長、山崎総務省合併推進課長、君島自治労中央執行委員などがパネラーとなり「自治体はみずからリストラできるか」をテ



メモを取りながら真剣に受講



パネルディスカッションの様様

ーマにパネルディスカッションが行われました。様々な立場から地方自治体が置かれている現状と、今後の見通しなどが話され、リストラとは人員削減が目的ではなく、仕事や組織の再構築を言うのであり、単なる人員削減に止ってはいけない。地方自治体が望まれている仕事や現実の環境にあわせ、組織を再構築することであり、その際に生じるムダを取り除くことによつて余剰人員等の削減ができるとの指摘もありました。

新星会では、今後もこのような研修会へ積極的に参加し研鑽を深めて、市政に反映させようと思っております。





小沢一郎代議士を囲んで

小沢一郎先生の政治への気概を感じる  
会派研修で東京滞在中にサプライズがありまして。研修会が終了したあと、午後六時から小沢一郎代議士との懇談会を開くことが出来ました。お忙しい小沢先生が日程を割いて私たちとの時間を作っていただいたのでした。当日も深夜まで日程が詰まっていたようですが、午後六時から一時間少々、貴重な時間を私たち新星会の五人と懇談していただきました。先生からは政治情勢などを、私達からは地域の状況などをひびきを交えたなかで話し、和やかにそして有意義な時間をすごすことが出来、一同の胸に研修の良き思い出として

刻まれた出来事となりました。また、小沢先生の政治家としての信念に触れることの出来た時間だったと感じています。

### 岩手自治体学会 設立される

#### 設立記念フォーラムへ参加

二月十八日の土曜日に盛岡市の岩手県公会堂を主会場として、岩手自治体学会の設立総会と設立記念フォーラムが開催されました。岩手自治体学会とは、岩手県内の地域づくりに関する研究や交流を通じて、地域自治の発展と豊かな岩手県の創造に寄与することを目的に創設されました。この組織は、研究者（岩手県立大学や岩手大学の教授、学生）と県職員、市町村職員に県議会や市町村議会議員、NPO等で構成されており約二百名の会員でスタートしました。この会の立ち上げには、発起人の一人として福田利喜議員が加わり、企画や作業を行ってまいりました。当日は、設立総会后に、増田知事の基調講演や各分科会に分かれてのセミナーなど盛り沢山な内容となりました。設立フォーラム終了後は、講師を交え参加者交流会が開かれ、多くの人と交流してきましたところ。全国組織である自治体学会には、新星会として法人会員とな

り、様々な研究会等へ参加してきていますが、足元である岩手県に創設されることから今後は、岩手自治体学会の活動にも参加し、県内の様々な方と交流を深め、陸前高田市の発展に少しでも寄与できるようにしたいと考えています。



設立記念フォーラムセミナー

#### ご意見をお聞かせください。

新星会では、会報「新星会」をはじめ、座談会や意見交換会など様々な活動を計画しています。地区公民館、町内会、婦人会や数人の集会でもかまいませんので、ぜひ気軽にお声掛けください。どこへでもお邪魔致します。皆様の率直なご意見をお聞かせください。

◎連絡先  
会長 松野榮雄 (55-4416)  
幹事長 福田利喜 (56-2166)  
または、会派員へご連絡いただければ幸いです。



西條 廣  
副会長  
議会運営委員長  
産業建設常任委員



佐藤信一  
事務局長  
教育民生常任委員



松野榮雄  
会長  
総務常任委員



小松 眞  
顧問・議長  
教育民生常任委員



福田利喜  
幹事長  
総務常任委員長  
議会運営委員